

ふじみサラダボール子育て情報

「社会デビュー」

令和5年10月18日号

板橋富士見幼稚園



良いことや悪いこと

子どもは、1歳を過ぎると生活リズムを整えることを基本に、親からの躾（しつけ）が始まります。しつけとは、我が子が社会で安全に過ごし、他者と良好な人間関係を持てるようになるための教えです。それぞれのご家庭で、一つ一つ「良いこと・悪いこと」を丁寧に何度も伝え、学んでいきます。〔生活習慣〕という社会での適応力を繰り返し教えてもらいながら、自立に向かって育っていきます。

最近、多様性社会が尊重されるようになってきたことから、できることやできないこと、そして良いことや悪いことの判断がつかなくても、それはその子の個性と捉える方もいます。しかし、本来しつけと言われる行為は、どの人にも共通の感覚意識のことです。つまりどの子と一緒に遊んでいても、同じ感覚意識を持ってやり取りできる共通の約束を身につける事をいいます。

さて、しつけはいつ頃から始めればよいのでしょうか。親が洗濯物を取り込み畳んでいると、「お手伝いする」と言って横で一緒に畳もうとしたり、掃除を始めると掃除機を奪って遊びはじめたりする時期があります。実は我々専門家は、この時期に躾を開始することを奨励しています。それは、周りが見えて大人の言うことが分かり始め、「自分でやりたい！」という気持ちが芽生えてくる頃だからです。

一緒に洗濯物を畳んだり、お着換えを自分でしたり、配膳のお手伝いをしたり、また言葉で「ありがとう」「ください」「かして」「いいよ」等の挨拶言葉が言えたり、排泄や手洗い・歯磨き・整理整頓などが出来たら、いっぱい大げさに褒めてあげてください。

それぞれのご家庭で、正しくはっきりと、良いことや悪いことを伝えていくようにすると、やがて道徳心が芽生え、規範として意識されるようになってきます。2歳代からは理解力も備わり始めるので、理由を伝えながら説明してあげましょう。

しつけにはその子に適した時期があるので、慌てずにゆっくりと続けてみてください。大切なことは、言ってやらせていくのではなく、して見せて一緒にしてあげることです。時間に余裕が無い時もあり、大変だとは思いますが、できるとうれしい・楽しいといった気持ちが芽生えるように、親子の信頼関係を築きながら取り組んでいけるといいですね。



【写真：楽しく運動会の練習を重ねてきた子どもたち。本番に向け日々の練習にも気合が入り、気持ちが高まっています！】